(52) 栃木県玉生の万珠 (まんじゅ) 鉱山跡一追記 ここも10年ぶりに再訪した。現状の確認とGPSのガーミンによる経路ログの取得を目的とした。

2021年4月



図1 玉生から63号線を北上して来る。お寺付近のA点近傍は車の駐車は無理である。63号線脇のP1には「落合橋パーキング」があり、トイレも完備している。また、橋のたもとのP2には狭い河川敷があり、数台ならば駐車ができよう。車はP1に駐車することを勧める。A点付近のお寺の 墓地の所から、林道に入り、西行していく。B点に坑口跡がある。左下の三角点-B点-A点を後掲の鉱山図(後掲の図3)と対比することで、B点の坑口跡を「通洞坑」と推断した。

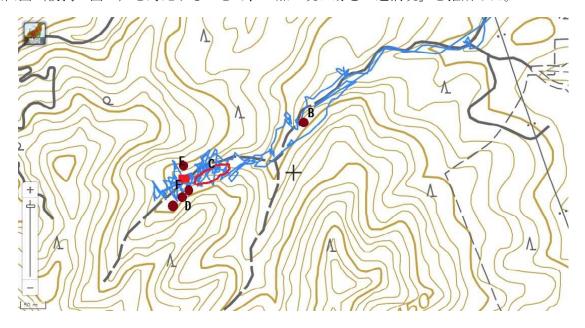


図2 図1の部分拡大図。B点の沢の右岸、沢水準に坑口跡がある。これを「通洞坑」と推断した。そこから沢を登り上がり、分岐している沢の右側に進んで行く。C点が沢の右岸にあるプラトー。E点が入口両側に石垣組がある潰れた坑口跡。F点の赤色四角はコンクリートアンカー跡。D点は3連の坑口跡。真ん中の坑口跡の上部は露天掘りの深い溝となっている。この付近に就いては参考文献 (1)の鉱山図(後掲の図3)中には何の記載もない。この鉱山図が書かれた後になって開発された 場所であろうと推断した。

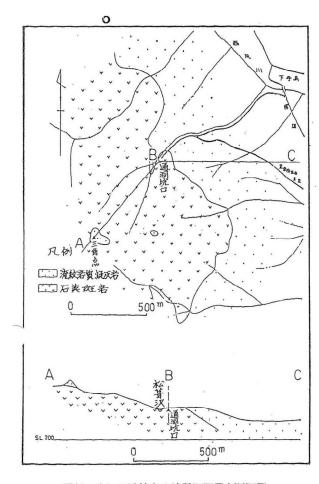


図16-1 万珠鉱山の地質平面図と断面図

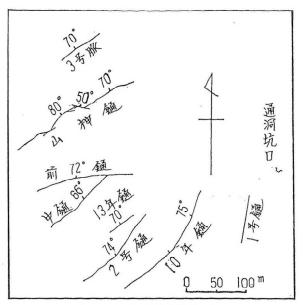


図16-2 万珠鉱山鉱脈分布図

は粗鉱,月産110t程度を産出した。 万珠鉱山の生産量を表16-1に示す。

3. 地質および鉱床

万珠鉱山付近の地質は下部が石英斑岩,上部がこれを被覆する凝灰岩および石英粗面岩質溶岩で、ともに新第三紀中新世福渡層に属する。万珠鉱山の地質平・断面図を図16-1に示す。

図3 参考文献(1)から複写掲載。三角点(A)ー通洞坑口(B)ー西荒川の距離と方位関係から、図1,2のB点で確認した坑口跡をこの通洞坑口と推断した。この上流で沢が大きく2つの分岐している点でも、図2とこの図は良く合致もしている。

している点でも、図2とこの図は良く合致もしている。 ところで通洞坑口のある沢は「松茸沢」。このことは、この付近で「マツタケ」が自生していたことを伺わせている。マツタケの時期に合わせれば、一石二鳥かも。

鉱山跡写真



写真1 A点である。左側の林道に入っていく。写真の右側が墓地。



写真2 A点から登って来て直ぐ。林道は大いに荒れているが、2足歩行では問題は無い。沢沿いの林道は、沢が増水したとき、「導水路」となり、荒れる場合がある。特に沢の横断林道部では。林道の利用者がいなければ、そのまま「廃林道」となってしまう。近年このような、道に出会う場合が多くなってきている。



写真3 林道を登ってきた。B点付近である。右下が沢。赤輪で囲んだ黒い所に坑口跡。



写真4 それに近づいての一葉。



写真5 更に近接して、坑口より内部を覗く。探査結果と資料の鉱山図からこの坑口を「通洞坑口」と判断した。下に水が溜まっているが、入口付近に積もっている土砂を取り除けば自然排水ができるであろう。時間がかかりそうであるが。



写真6 沢を登ってくると、前方で沢は2つに分岐している。中央にある大きな岩が目印となろう。右側の沢に進んで行く。



写真7 C点付近のプラトー。沢の右岸にある。この写真は下流側から上流側を見ている。前方の林の先の明るい所の左側には3連の坑口跡、前方右側にはコンクリートアンカー跡と坑口跡がある。



写真8 D点付近の沢の右岸側に、近接して3つの坑口跡がある。赤輪の所が下流側の、そのうちの1つ。中央部分から手前に「溝」跡がある。坑口は埋もれている。



写真9 それに近接しての一葉。坑口は 完全に埋め尽くされているが、汗をかけ ば開けられるかも。



写真10 更にもう1つの坑口跡。赤輪 の所



写真11 その坑口より内部を覗く。

写真12 この坑口の山側に あった露天掘りの跡



写真13 もう1つの坑口跡



写真14 その内部を覗く。



写真15 図2で赤四角でマークしたF 点である。赤輪の所にコンクリート基台 が残っている。既報の写真の1枚にこの コンクリート跡が写っている。



写真16 E点である。手前の左右に石垣があり、山側に向かって溝となっている。 昔の坑口付近の入口形状をしている。その 中央の前方に坑口があったはず。赤輪の所。



写真17 前方に進んでみると、やはり、 坑口があった。その内部を覗いた一葉。

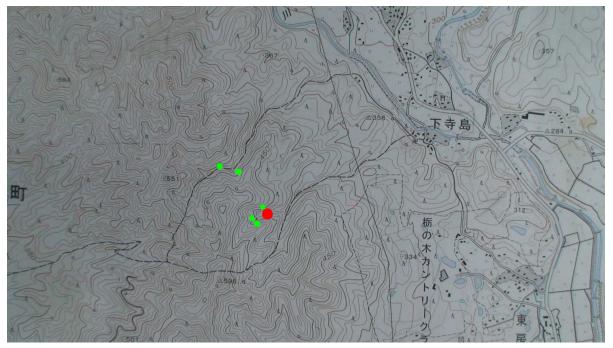
参考文献 (1)「日本金山誌 第4編関東・中部」、社団法人資源・素材学会、1994年

(52) 万珠 (まんじゅ) 鉱山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献(1)によれば、「栃木県塩谷郡塩谷町にあり、前記栃木坑の東北に隣接し、石英斑岩、流紋岩中の鉱脈群である。上部は含金石英脈で、下部は黄鉄鉱、黄銅鉱鉱脈になる。」

玉生地区から、下寺島に向かって、道路を北上する。下寺島にある神社の記号の先、数百mのところで、道路左側にある細い道へと進む。注意しないと見失うであろう。道路を進んでいくと、道の脇にお寺がある。この辺りで、地形図中で、南西に延びている林道がある。この林道の先の赤丸の所に鉱山跡がある。その周りには幾つもの坑口跡もある。図中の緑丸である。この所が万珠鉱山跡らしい。が、古い地質図を調べると、万珠鉱山はこの位置ではなく、1つ北側の沢中にあった。お寺の所から、林道を川に沿って先に進んでいく。図中の林道を先に進んでいく。途中、林道が荒れているので、車を降りた方が良いであろう。前述の万珠鉱山跡の北西の当りに、坑口跡を2つ見つけた。図中の2つの緑丸である。ここを北万珠と呼び、先の鉱山跡を南万珠と呼ぼう。

の緑丸である。ここを北万珠と呼び、先の鉱山跡を南万珠と呼ぼう。 捜し方が下手なのであろうが、北万珠ではズリらしいものを全く見つけることができなかった。南 万珠では、赤丸当りで、微少水晶の塊を幾つか採取することができた。次回以降、主要鉱石標本の採 集に努力をしよう。



赤丸が鉱山跡。緑丸が坑口

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「玉生」

探査日 2010年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

鉱山跡写真 南万珠



南万珠への途中の林道左側にあった石垣 積の平坦地。鉱山施設の何かがあったの であろうか?



地形図中の赤丸の当り。鉱山施設らしい ものが点々としている。



写真の中央の黒い部分が坑口跡。坑口から手前まで、地面が彫り込まれている。

北万珠



途中の林道左側にあった石垣積。右側 は沢である。この石垣の左上方には、 次の写真で示している坑口がある。



坑口跡



林道を更に数百m進んでいくと、右側に坑口がある。

採集鉱物写真 それほどでもないが、採集品の幾つかを紹介する。

品名微水晶塊化学組成S i O 2 微水晶塊 透明 色

ガラス光沢

光条比硬件 白 2. 7 7

結晶系 六方晶系 劈開 なし

共生鉱物 元々石英なので各種多彩

解説



